



©岩手県観光協会

岩手県盛岡市立高等学校

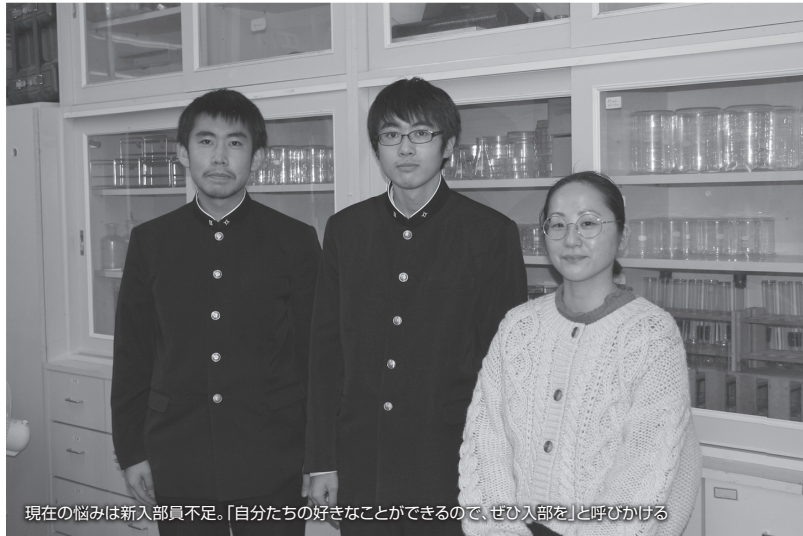
岩泉町龍泉洞地底湖内及びその周辺における環境調査

天然記念物の鍾乳洞を守る研究

地底湖の水中動画撮影にも成功

岩手県盛岡市立高等学校の自然科学部では、7年前から国の天然記念物である龍泉洞の地底湖で、水質や景観を損なう可能性が指摘されている藻類の調査を続けてきた。これまでに自作のROV（遠隔操作潜水機）で地底湖の水中動画撮影に成功したほか、採取した藻類の同定を実施。これらの研究発表で「2020 いわてユネスコ科学賞」など数々の賞を受賞している。

顧問の石塚史子教諭が「私はサポート役に徹しています」と言うように、活動は部員主体で行ってきた。今年度はROVに藻類採取機能を追加する予定だったが、水流が強くてバッテリーがもたないことが判明。助言者である岩手県立博物館の学芸員に相談したところ、思い切って別の方法に切り替えることを勧められた。



現在の悩みは新入部員不足。「自分たちの好きなことができるので、ぜひ入部を」と呼びかける



微細な藻類を顕微鏡で調べる

研究は好奇心の赴くままに

先輩から受け継いだROVでの藻類採取は断念したものの、現在は自分たちで考えた方法で藻類を採取し、培養に挑戦中だ。また、龍泉洞の研究だけにとどまらず、市内の山や沢などで生物の採集や観察をするなど、好奇心の赴くままに活動している。

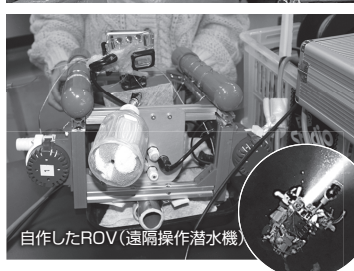
生物好きの2年生田村竜馬さんが「龍泉洞でのフィールドワークも楽しいですが、生物採集もおもしろい」と言うように、ほぼ毎週の生物採集によって、部室にはサンショウウオやヒキガエル、魚類などの水槽がどんどん増えていく。将来は爬虫類の研究をしたいという2年生の小野隼佑さんは「今は龍泉洞で採った藻を培養していますが、今後は藻類が繁茂にくい光の波長や照射時間を調べたいです。一般的な水槽に生える藻と同じ種類のものもあるので、教室の水槽の藻類対策にも応用できそうです」と、部が代々受け継いできた研究と自分たちの活動をつなげようとしていた。（個別助成）



龍泉洞の水源地でも藻類を採集する



羊型の採集器で地底湖の藻類を採集



自作したROV（遠隔操作潜水機）

●実施担当

石塚史子 教諭

●活動のモットー

さまざまな体験で行動する力を身につけ、ゆくゆくは、人の役に立つことを考えられるような人になってほしい



校訓は「若き日に身体を鍛え知能を磨き情操を深め教養を積み」。盛岡実践女学校として開校し、現在も商業科を備える伝統校。

設立：1920年
生徒数：825人
所在地：岩手県盛岡市上太田上川原96

学校概要

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索